



「女と女の愛は、

ともに地獄へ墮ちる決心と勇気がなければ、

成就することはできないのだろうか」(芳子)

「あなたは私の前に、閉じられていた扉を

開ける鍵を持って現れたのよ」(百合子)

大正から昭和にかけて、作家・中條(後に宮本)百合子と  
ロシア文学者・湯浅芳子の、本当にあった愛と別れの物語。

# 百合子、ダスヴィダーニヤ

## 新進女優とベテランのコラボレーション

民主主義文学のシンボルとして時代の先端を  
駆け抜けた百合子を演じるのは、これが映画初  
出演のシンガーソングライター、一十三十一(ひとみ  
とい)。自らの可能性を全面的に開花させようとする  
向日性の女性作家を体現する。

一方「私は男が女に惚れるように、女に惚れる」  
と公言する芳子を演じるのは新進女優の菜葉菜。  
国際的な評価を得た『ヘヴンズストーリー』でも  
注目を集めたが、今回はまったく違った歴史上の  
異色の女性像を演じきった。

愛し合う二人の間に挟まって苦悩しながら、な  
んとか百合子を引き止めようと奮闘する夫、荒木茂  
を演じるのは、日本映画の顔、大杉漣。三人は、東  
京と、百合子の祖母が住む福島県の安積・開成山  
(現・郡山市)の間を往復しながら、愛憎のドラマ  
を繰り広げる。

江戸・明治の女性の気風を備えた百合子の母  
を、吉行和子が見事に演じた。また、二人を見守る  
先輩作家・野上弥生子を演じているのは、エッセイ  
ストでもある洞口依子。浜野組常連の舞台女優、  
大方斐紗子は、百合子の祖母役を演じた以外  
に、出身地福島の方言指導も行った。

チェーホフなどロシア文学や演劇の名翻訳者と  
して知られる湯浅芳子と、戦時下、厳しい弾圧を受  
け、戦後民主主義文学の旗手となった宮本百合  
子の、若き日の濃密な青春を描く。

「スカートをはいた侍」と呼ばれ、「女を愛する女」  
であることを隠さずに生きた芳子と、天才少女作  
家としてデビューし、早くに結婚して夫と暮らしなが  
ら作家活動を行っていた百合子は、出会ってすぐ  
に惹かれあった。

「女と女」「男と女」というような既存の枠組みを  
越えた二人の関係は、どんな恋よりも情熱的で、ど  
んな愛よりも深い信頼で結ばれたものだった。

類いまれな才能を持ったふたりの女性が、魂を  
スパークさせるように巡り会い、7年間の生活を共  
にした、その最初の1ヶ月半の日々を描いた、最上  
級の「恋愛映画」である。

監督は、尾崎翠原作の文芸映画『第七官界彷徨-尾崎翠を探して』『こぼろぎ嬢』や、高齢女性の  
セクシュアリティをコミカルに描いた『百合祭』で、国  
内外の高い評価を得た浜野佐知。10年を越えて  
念願だった企画を、執念で映画化した。

## <ストーリー>

1924年(大正13年)、ロシア語  
を勉強しながら雑誌の編集をし  
ていた湯浅芳子は、先輩作家・  
野上弥生子の紹介で、中條百合  
子と出会う。百合子は17歳で処  
女作を発表し、天才少女と騒が  
れた小説家。19歳の時に遊学中  
のニューヨークで、15歳年上の  
古代ペルシア語研究者の荒木  
茂と結婚したが、芳子と出会っ  
た5年後には二人の結婚生活を  
行き詰まっていた…

## <キャスト>

菜葉菜  
一十三十一  
大杉漣  
洞口依子  
大方斐紗子  
麻生花帆  
平野忠彦  
吉行和子



## <スタッフ>

企画 鈴木佐知子  
原作 沢部ひとみ  
「百合子、ダスヴィダーニヤ」  
+宮本百合子「伸子」「二つの庭」  
脚本 山崎邦紀  
撮影 小山田勝治  
照明 守利賢一  
音楽 吉岡しげ美  
美術 奥津徹夫  
編集 金子尚樹  
制作 森満康巳  
監督 浜野佐知

2011年/日本映画/カラー/  
35ミリ/アメリカンピスタ/  
102分/ドルビーSR

助成：文化芸術振興費補助金  
製作：株式会社旦々舎  
〒156-0052  
東京都世田谷区経堂 3-24-1  
Tel 03-3426-0820  
Fax 03-3426-1522  
e-mail tantan-s@f4.dion.ne.jp  
HP <http://www.h3.dion.ne.jp/~tantan-s/>

Юрико, до свидания.